

12月の新着本

12月14日(土) 貸し出し開始

【一般図書】

死にがいを求めて生きているの	朝井リョウ	植物状態のまま病院で眠る智也と、献身的に見守る雄介。二人の間に横たわる“歪な真実”とは?“平成”を生きる若者たちが背負う自滅と祈りの物語
歴史の失敗学25人の英雄に学ぶ教訓 【今月のスタッフおすすめ本】	加来耕三	歴史家の加来耕三氏が、独自視点の軽快かつ濃密な歴史物語で25人の英雄たちの“知られざる失敗の原因”を明らかにし、現代に通じる教訓を浮かび上がらせた。
万波を翔る	木内昇	維新前夜。勝海舟、水野忠徳、岩瀬忠震、小栗忠順から、渋沢栄一まで異能の幕臣たちが、海の向こうと対峙する。日本の外交の曙を躍動感あふれる文章で、爽やかに描ききった傑作長編!
へぼ侍 【松本清張賞受賞作】	坂上泉	明治維新で没落した与力の跡取り錬一郎は、西南戦争で武功をたてれば仕官の道も開けると考え、意気込んでそれに参加する。しかし、彼を待っていたのはひと癖もふた癖もある厄介者ばかりの部隊だった―。落ちこぼれ兵士たちの活躍を描く痛快歴史エンターテインメント開幕。
緋の河	桜木紫乃	男として生まれた。でも、あのおねえさんみたいな、きれいな女の人になりたいな。「どうせなるのなら、この世にないものにおなりよ」。その言葉が、生きる糧になった。カルーセル麻紀さんのことを、いつか絶対に書きたかった、という熱い思いが物語から溢れ出る。
犯人に告ぐ 3 紅の影	雫井脩介	横浜の洋菓子メーカー「ミナト堂」の父子を誘拐した「大日本誘拐団」の実行犯逮捕から間もなく、捜査官の巻島史彦は、主犯格と見られる淡野を追っていた。一方、逃げ延びた淡野は鎌倉に潜伏し、警察を出し抜く新たな犯罪計画を立てていた―。
線は僕を描く	砥上裕将	両親を交通事故で失い、喪失感の中にあつた大学生の青山霜介は、水墨画の巨匠・篠田湖山と出会い、その場で内弟子にされてしまう。水墨画とは、筆先から生みだされる「線」の芸術。描くのは「命」。戸惑いながらも魅了されていく霜介は、線を描くことで次第に回復していく。
やがて満ちてくる光の	梨木香歩	デビューから25年を経た現在までの作家の生活を映し出すエッセイ。森を歩き、鳥を観る。きのこの生命に学び、人の未来を思う…。創作の萌芽を伝え、読み手を照らすあたたかい光が胸奥に届く。今月配架の児童図書「ヤービの深い秋」との併読を推奨。
落日	湊かなえ	新人脚本家の甲斐千尋は、新進気鋭の映画監督から新作の相談を受けた。『笹塚町一家殺害事件』15年前に起きた、判決も確定しているこの事件を手がけたいという。“真実”とは、“救い”とは、そして、“表現する”ということ。絶望の深淵を見た人々の祈りと再生の物語。
三体	劉 慈欣	ある会議で世界的な科学者が次々に自殺している事実を知り、学術団体“科学フロンティア”への潜入を引き受けた汪森(ワン・ミャオ)を、怪現象“ゴースト・カウントダウン”が襲う。そして汪森が入り込む、三つの太陽を持つ異星を舞台にしたVRゲーム『三体』の驚くべき真実とは?

☆ NHKテレビテキスト「きょうの料理12月号」は閲覧できます。

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。

なお、1月新着本貸出日(1月11日)から貸出いたします。

